



このアイコンをダブルクリック

事前にJTDXのみでも良いので、LOGを作っておくと log.adl へのリンクの画面は必ず設定は終了です

事前のLOGの作り方

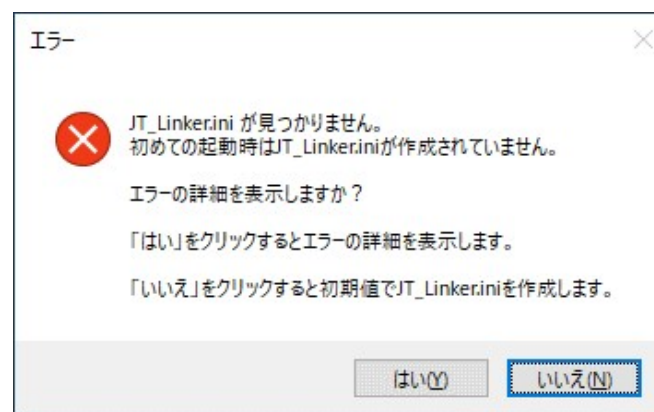
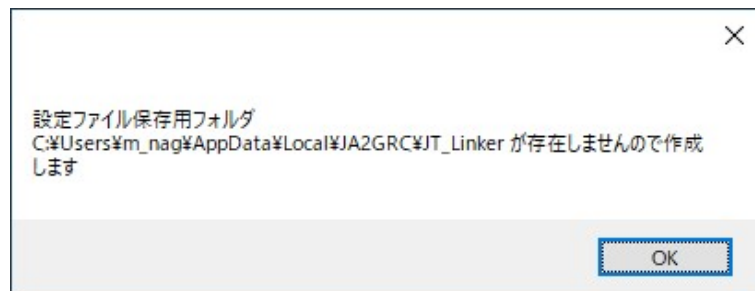
JTDXを立ち上げて、周波数表示の左下にある DX Call に仮に自分のコールを入力し、JTDX画面の ログに記録 ボタンを押す。

次に Log QSO という小さな画面が POP するので、その画面のOKを押して画面を閉じる。

JTDXのログがあるホルダーに2つのファイルが作成される。

wsjtx.log wsjt_log.adl

このファイルが存在すると、最後の方のページ2枚分の設定は不要となります。



例外 No.53



JT_Linker.ini が見つかりません。
初めての起動時はJT_Linker.iniが作成されていません。

OKをクリックすると初期値でJT_Linker.iniを作成します。

エラーの詳細は以下の通りです。

処理： RdIniFile

発生： mscorlib

トレース： 場所 System.IO.__ErrorWinIOError(Int32 errorCode, String maybeFullPath)

場所 System.IO.FileStream.Init(String path, FileMode mode, FileAccess access, Int32 rights, Boolean useRights, FileShare share, Int32 bufferSize, FileOptions options, SECURITY_ATTRIBUTES secAttrs, String msgPath, Boolean bFromProxy, Boolean useLongPath, Boolean checkHost)

場所 System.IO.FileStream..ctor(String path, FileMode mode, FileAccess access, FileShare share, Int32 bufferSize, FileOptions options, String msgPath, Boolean bFromProxy, Boolean useLongPath, Boolean checkHost)

場所 System.IO.StreamReader..ctor(String path, Encoding encoding, Boolean detectEncodingFromByteOrderMarks, Int32 bufferSize, Boolean checkHost)

場所 System.IO.StreamReader..ctor(String path)

場所 JT_Linker.Form1.ReadIniFile(String filePathInidata)

説明： ファイル

'C:\Users\%m_nag\AppData\Local\JA2GRC\JT_Linker\JT_Linker.ini'が見つかりませんでした。

OK

JT_Linker

初期設定をして下さい。
少なくとも、コールサイン、グリッドロケータ、デコーダ・ファイルパスを設定して下さい。

コールサインとグリッドロケータのペアは8つまで設定可能です。
グリッドロケータは4桁または6桁が設定可能です。
デコーダ・ファイルパスは少なくとも一つ以上設定してください。

OK

Setup

Basic Settings | Decoder | Remarks | Web Logs

Basic Settings

My Call _ My GL: JF1WLK _ PM95RQ

Set: ...

AutoTasktray-In: ☐

EntitySearch: ☐

LogSearch: 1000

KeyStroke: 100

QthSearch: 500

Az and Distance

☐ Use Az and Distance

☒ QTH

Remarks1: ☐

Remarks2: ☐

Current Text:

Counter

Figures: 3

Current Count: 1

Current Text:

Save Cancel

①Setをクリック

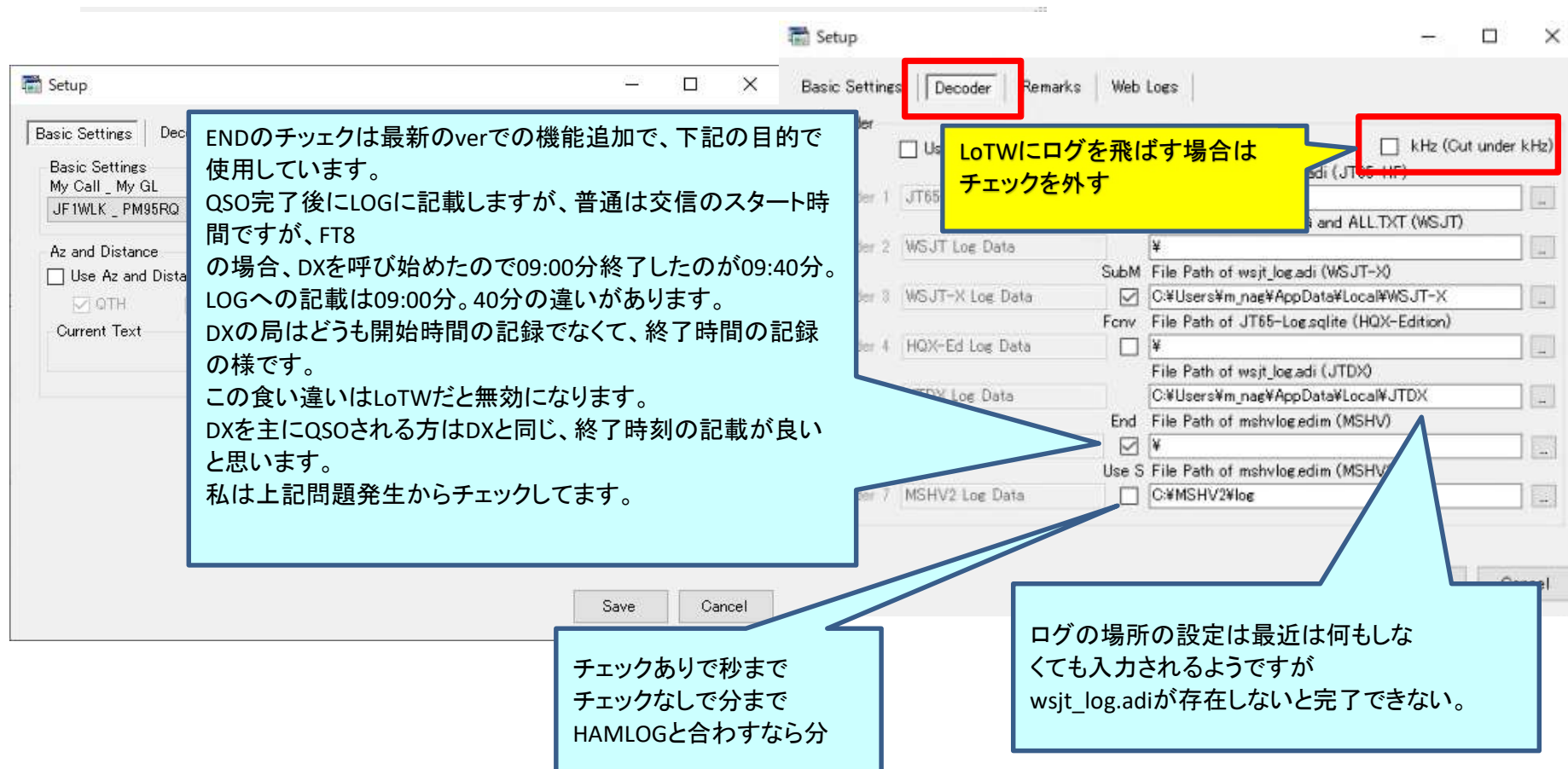
Set MyCall, My GL, eQSL Pswd and ClubLog Pswd

My Call	My GL	eQSL Pswd	ClubLog email adrs	ClubLog Pswd
JF1WLK	PM95RQ			
JF1WLK	PM95RQ			

Add

Save Cancel

- ②コールとグリッド入力
- ③Addを押し上の枠に移動
- ④Saveで保存



事前にJTDXのみでも良いので、LOGを作っておくと log.adi へのリンクの画面はです設定は終了です

事前のLOGの作り方

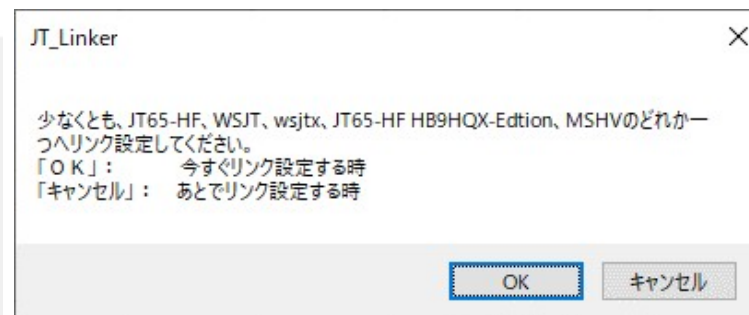
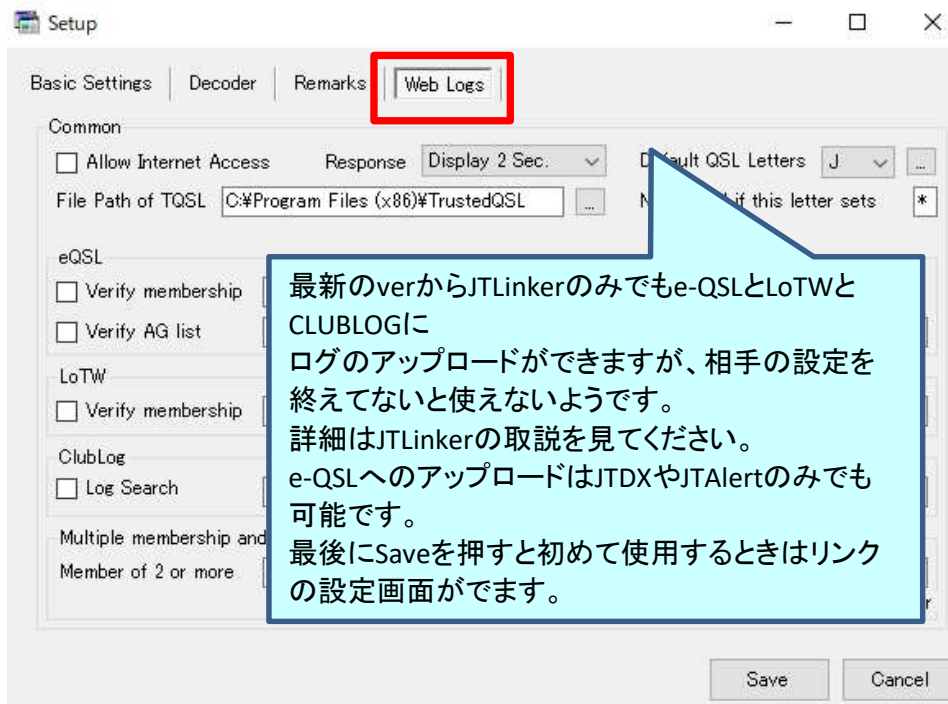
JTDXを立ち上げて、周波数表示の左下にある DX Call に仮に自分のコールを入力し、JTDX画面の ログに記録 ボタンを押す。

次に Log QSO という小さな画面が POP するので、その画面のOKを押して画面を閉じる。

JTDXのログがあるホルダーに2つのファイルが作成される。

wsjtx.log wsjt_log.adi

このファイルが存在すると、次のページ2枚分の設定は不要となります。



JT65-HFは使用しないのでキャンセル



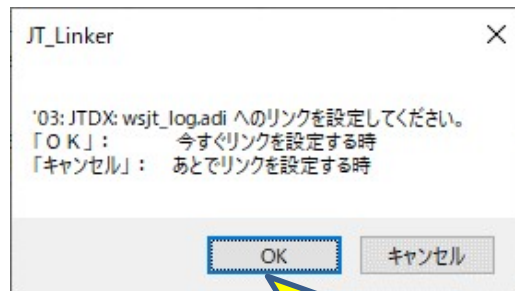
WSJTは使用しないのでキャンセル



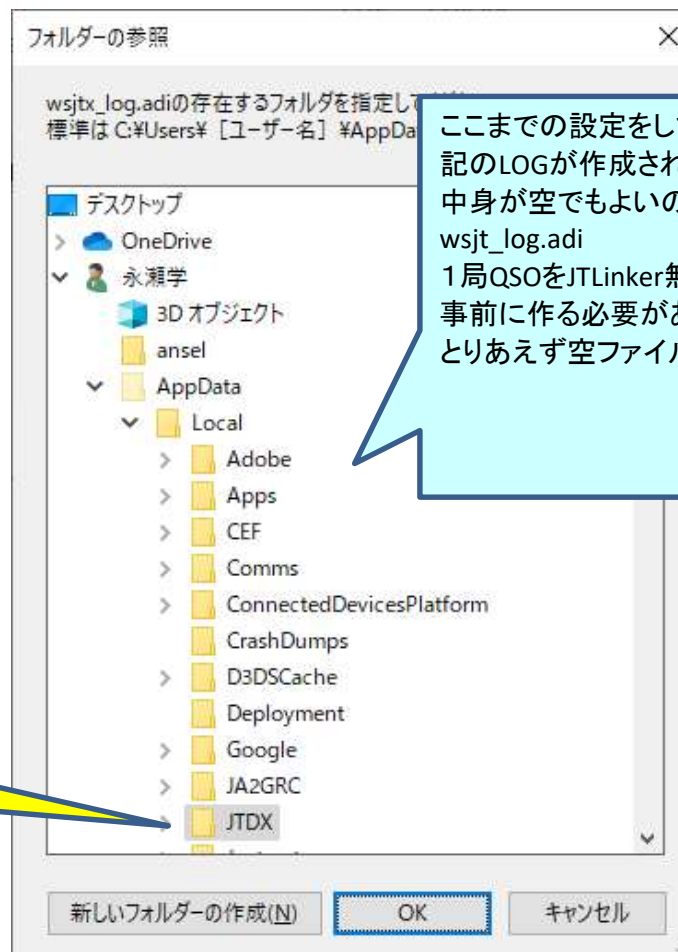
WSJT-Xは使用しないのでキャンセル



HB9HGXは使用しないのでキャンセル



JTDXは使用するのでOKを押します



ここまでの設定をしても、JTDXのインストールだけでは下記のLOGが作成されないので中身が空でもよいので下記を置くか wsjt_log.adi
1局QSOをJTLinker無しで実施しwsjt_log.adiを事前に作る必要がある。
とりあえず空ファイルを提供してみます。

JTDXが最初からマークされています

設定が完了すると、DX: Link と表示されます

JT_Linker - JF1WLK_PM95RQ...(eQSL:X, LoTW:X, Club:) Ver.2021.07.13f

Log (65-HF : -- , JT : -- , JT-X : Link , HQX : -- , DX : Link , MSHV : --)

His Call ☐ DX Date (EXT) Time His My ☒ Freq Mode GL ☒ QSL

FT8 HisGL J

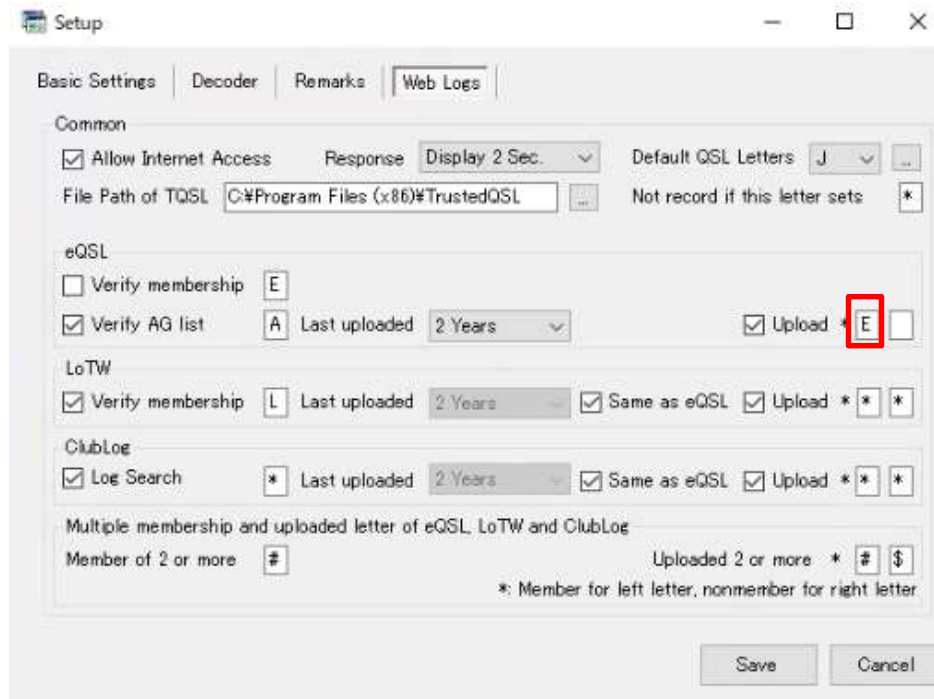
☒ Name ☒ QTH ☐ CQ ☐ 1 ☐ 2

☒ Remarks1 ☒ Remarks2

Setting Hamlog

☒ Send ☒ Save ☐ Save(Msg) Resend

Web Logs設定の参考例と実際の動作



e-QSLについて

e-QSLのみ加入していて AG取得の局は QSL欄が JがAに QSL 送る部分(左側)にEが入ります

Lotwについて

LoTWに加入の局は QSL欄 J の表示部分が L に変わります(QSL送受の部分は空白です)

LoTWとe-QSL両方に加入の局は QSL欄 J の部分が # に変わり、QSL 送る部分(左側)にEが入ります
※印刷しなくなりますが、印刷したいなら赤く囲んだ部分を E → * に変更します